

災害に負けないまちづくり

防災意識を高めましょう!

町の防災への取り組みをお知らせします

昨年の東日本大震災はいうまでもなく、今年5月の北関東での竜巻被害、7月の九州豪雨被害など、近年、地震や台風、ゲリラ豪雨などの大きな災害が起きています。

7月には、中川町で深度4の地震があり、幌延町でも震度2を観測しました。幸い、大きな被害はありませんでしたが、こうした自然災害は、いつ、どこで起きてもお不思議はありません。

幌延町は災害の少ない地域です。けれど、決して災害が起きないということではありませんで、突然の災害に対する準備だけは必要です。

9月1日は「防災の日」です。今月号では、幌延町の防災に対する取り組みをお知らせします。

防災マップのご活用を

町では、平成22年6月に「幌延町防災マップ」を、平成23年10月に「幌延町中小河川流域大雨時危険区域マップ」を作成し、全戸に配付しています。

防災マップは、台風や大雨、地震などの災害によって被害が想定される箇所や、避難所の位置などを地図に示したものです。地図には、浸水想定地域や土砂災害の危険がある場所などが表示されています。そのほか、避難情報の伝達経路や非常持ち出し品のリスト、避難時の心得、緊急連絡先などが記載されています。

中小河川流域大雨時危険区域マップは、特定の中小河川の標高とその周辺の土地を比べ、標高の差を色別に表示したものです。台風や局所的大雨（ゲリラ豪雨）などの災害で、浸水の可能性が高い

と思われる箇所の危険度が、色別で示されています。

どちらも広げると結構大きな地図ですので、いつも広げておくことは無理ですが、年に一度はご家族で危険箇所や防災の心得などを確認してください。

「まるごとまちごとハザードマップ」事業を行います

通常、ハザードマップは、洪水や浸水の危険箇所が図面上に表示されるもので、町では平成22年度に作成した「幌延町防災マップ」がそうです。

このハザードマップを立体的にして、地域をまるごとハザードマップに見立てようというのが、「まるごとまちごとハザードマップ」事業です。今回実施する「まるご

とまちごとハザードマップ」の対象地区は問寒別地域で、北海道開発局留萌開発建設部が実施主体となり、幌延町と連携して行います。

ハザードマップの普及、浸透、危険意識の醸成、洪水避難所等の認知度の向上を図ることを目的に、問寒別地域の皆さんが、自分達の生活する地域の洪水の危険性を実感でき

